

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や自然を体験したり、楽しみながら学ぶことができるフィールドです。里の田園風景や、居久根、草原、湿地、牧野など、里地の自然を再生しています。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆います。秋は柿や栗が実り、懐かしさとぬくもりのあるみちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぐだけでなく、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川・池

湿生花園では湿地を再生し、湿地特有の野草をタネから育て増やしています。カキツバタ、ノハナショウブ、チダケサシ、クサレタマ、アマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ等が咲きます。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

茅などの草が暮らしの必需品であった時代には、各地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、人の手で維持されていた動植物が豊かな草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、ナデシコ、キキョウ、オミナエシなど、草原の野草を地元のタネから育てています。野草が彩る広大な草原には、ヒバリやチョウ等、草原の生き物も増えてきました。

みちのくの馬文化が育んだ半自然草原の再生に取り組んでいる放牧区では、ヤギ、ヒツジを飼育し、ふれあい体験ができます。羊毛は手仕事体験に利用しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草を楽しめます。



..... : 春の花野探勝おすすめコース(2,000m) : 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m) ▲ : 見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの隣の橋を渡って歩いていけます。



～体験施設～

自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。ボランティアや会員活動の参加も募集しています。詳しくはスタッフまで。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター

TEL 0224-84-5991

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

カワラナデシコ (位置C・E)

秋の七草のひとつで、草原等に生えます。草原の減少とともに消失し、川崎町内にわずかに残っていた株のタネから殖やしました。



キキョウ (位置E)

秋の七草のひとつで、草原に生えます。絶滅危惧種に指定されており、川崎町内に僅かに残っていた株のタネから殖やしました。



カセンソウ (位置D・E)

草原に生えるキク科の多年草です。葉はざらつき。花の形を歌仙(すぐれた歌人)が乗る車に喩えたといひます。



今日はここを観てみよう！

■ヤギ・ヒツジと触れ合おう (位置H)

ここでは、在来種主体の生物豊かな草原を復元するために、ヤギ4頭とヒツジ6頭を放牧しています。土曜日に実施している、家畜や草地をお世話するプチボランティアも募集しています(親子参加可)。

ヤギ (日本ザーネン種)

ヤギは「日本ザーネン種」というスイス原産の乳用ヤギを改良したものです。性別にかかわらず、個体によって角があったり、「肉ぜん」と呼ばれる喉のあたりに垂れ下がった皮膚があります。ヒツジより好奇心が強く、気も強いので、餌やりでもヒツジを押しつけて寄ってきます。

ヒツジ (コリデール種、サフォーク種)

全体が白いヒツジは「コリデール種」というニュージーランド原産で、スペイン原産のメリノ種と他種を交雑して作り出されました。羊毛と肉用の兼用種で、日本でも長く飼育されてきた品種です。

顔と足が黒いヒツジはイギリス原産の「サフォーク種」です。日本では主に肉用に利用され、最近は飼育数が増加しています。稀に小さな角があります。

ヒツジは自然に毛が抜けないように改良されており、5月頃に毛刈りを行います。

今年3月にコリデールとサフォークとの雑種の双子の仔羊が生まれました。顔や足は茶色や黒のまだら模様です。兄が「こぶし君」妹が「さくらちゃん」です。



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

オカトラノオ (位置E)

草原に生えるサクラソウ科の多年草です。花穂が虎の尾に似ていることが名の由来です。ヒョウモンチョウが盛んに訪花している様子が観察されます。



コオニユリ (位置C・D・E)

やや湿った草原に生えるユリです。古くに渡来したとされるオニユリに似ていますが、ムカゴができません。ユリ根を好むイノシシが殖え、急速に減少しています。



チダケサシ (位置A・B・C・H)

湿った草原などに生えるユキノシタ科の多年草で、園芸種のアスチルベに近い種です。キノコの乳茸をこの茎に挿して持ち帰ったことから、この名があります。



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

クルマバナ (位置E)

草原や林縁に生えるシソ科の多年草です。小さな桃色の花が車輪のように輪生する姿が名の由来です。



■雑木林に咲く花

クルマユリ (位置G)

里山では樹林に生えるユリです。車輪のような輪生する葉が特徴で、平面的な葉を広げることで、薄暗い林の中の光を効率的に受けようとしています。



ソバナ (位置G)

樹林や林縁に生えます。明るい草原に生え、葉が輪生や対生のツリガネニンジンに似ていますが、ソバナは葉が茎に交互につく「互生」です。



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

ヌマトラノオ (位置B・C)

オカトラノオは花穂が尾のように曲がりませんが、本種はまっすぐです。湿地に生え、地下茎を伸ばして群生します。



クサレダマ (位置A・B・H)

黄色の花が咲くサクラソウ科の多年草です。名前は「腐れ玉」でなく、地中海沿岸に分布するマメ科の低木「レダマ(連玉)」に似ている草という意味です



エゾミソハギ (位置A・B)

ミソハギ科の多年草で、お盆のお供えに用いられました。小さな花をよく見ると、雌しべが長いタイプ、短いタイプ、中くらいのタイプの3種類の花があります。

